

**[ 成果速報 ]**

# いちごのマルチ時期と裾上げの有無が地温と一次腋花房に及ぼす影響

**【背景】**

いちごのマルチは、作業性の良い「かぶせマルチ」が一般的ですが、頂花房の出蕾・開花が早く初期生育が良い「とちあいか」は、花房を折らないように注意する必要があるため、「合わせマルチ」を推奨しています。しかし、合わせマルチは労力がかかるため実践している生産者は少なく、出蕾前の早い段階でかぶせマルチを実施する生産者が多いため、早期マルチ処理による地温の上昇等、いちごへの影響が懸念されます。そこで、マルチ時期と裾上げの有無が、地温と一次腋花房に及ぼす影響を調査しました。

処理区	黒マルチ展張日
早マルチ	10月3日
早マルチ裾上げ	10月3日
合わせマルチ	10月19日

注 裾上げは、合わせマルチを設置した10/19まで実施。夜冷作型の分化期定植で、強草勢になる環境で栽培。



写真 早マルチ裾上げの様子

**【結果】**

早マルチ区と合わせマルチ区（推奨）の地温は、**早マルチ区より合わせマルチ区が2～3℃低く、早マルチ裾上げ区は、早マルチ区より、1℃低く推移**しました（図1）。頂花房と一次腋花房の花房間葉数は、早マルチ区で平均9.2枚、裾上げ区、合わせマルチ区で8.4、8.3枚と約1枚程度の差が見られ、一次腋花房第一果の収穫日は、株ごとのばらつきが早マルチ区で大きく、合わせマルチ区で小さくなりました（図2）。

以上の結果から、合わせマルチは、マルチ時期を遅らせることで地温を下げ、**一次腋花房出蕾の株ごとのばらつきが小さく、花芽の揃いがよくなることで、安定した出蕾が期待**できると考えられました。今後は、マルチ時期と遮熱資材の組合せについて検討します。

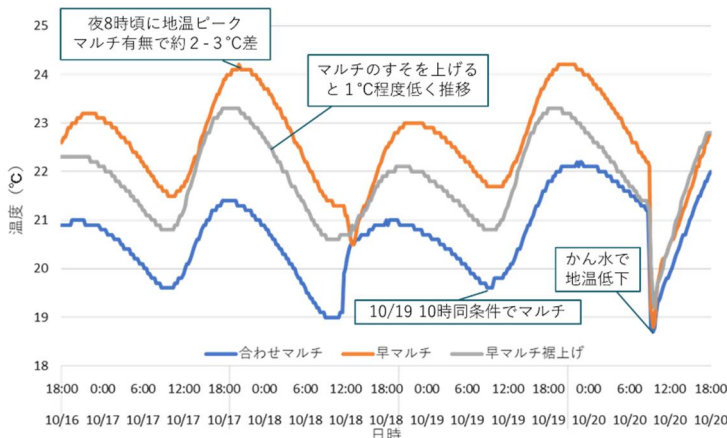


図1 マルチ時期と地温（地下15cm）

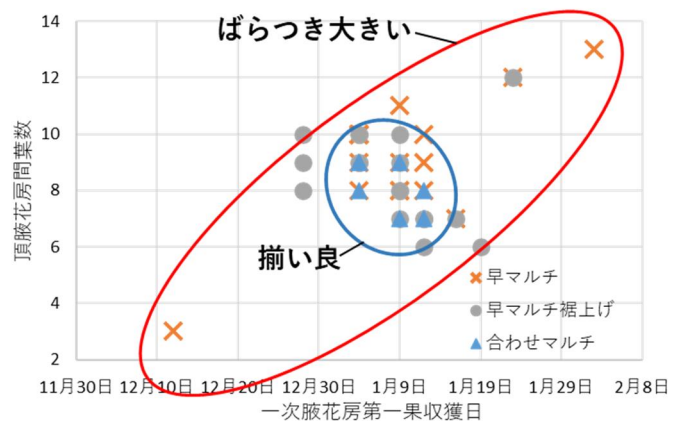


図2 頂腋花房間葉数と一次腋花房第一果収穫日の関係

（いちご研究所 松島 雄大）